

活動紹介

■活動場所

四日市公害と環境未来館活動室、
四日市市文化会館、中部地区市民センター
など

■活動日

年 2～3 回のシンポジウムを開催し、毎年
9 月に反原発集会やパレードを企画して
います。

それらの準備などのため不定期ですが打
合せを行います。



2011年3月福島第一原発事故が発生。わが国始まって以来最大の公害・環境破壊を引き起こしました。まだ事故は収束しておらず、7年という月日が経過しても発生現場には人が入ることさえできません。その周辺で毎日6000人もの作業員による収束作業が行われているのです。また10万もの人々が故郷に帰れず、汚染された地域では懸命な除染作業が行われており、汚染が深刻な7市町村の帰還困難区域では、避難指示がまだ解除されていません。

原発による発電が始まってすでに半世紀が経ちますが、過酷事故が次々と起こっています。核エネルギーの制御という人類の試みは破綻しているのです。これは、人類の能力の限界というべきものであり、自らの能力を課題に評価してしまった結果が生み出した悲劇です。被ばく作業・環境汚染・温排水・人体への悪影響、長期にわたる「危険な物質」の保管……。原発は民主主義に反し、人々の犠牲の上にか成り立たない危険なシステムなのです。しかしながら全国にある原発では、欠陥だらけの新規制基準に合格したとして、再稼動が始まっています。私たちは、二度とこのような事故が起きないように、原発や放射能の汚染について、議論を深めていきます。人類と原発は共存できません。経済優先の社会から、自然やいのちが大切にされる社会へ！私たちは原発ゼロ社会を目指して行動します。

代表者の環境や活動に関する思い

原発の稼動により発生する核のゴミは、10万年もの間、放射線物質を出し続けます。未来の子どもたちへの負担をなるべく減らすためには、これ以上核のゴミを増やさないようにしなければなりません。また、まだ決まっていない最終処分場の議論を深めるためにも、再稼動を凍結し、核のゴミの総量を確定させることが重要だと考えます。

その他 P R

市民による賛同拠金により、会の運営を行っています。シンポジウムや集会は、どなたでも参加でき、会費はいただいておりません。是非、ご参加ください。